

食品添加物が歯周病原細菌に及ぼす影響の解析

神谷 重樹

大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所

歯周病は歯周病原細菌の感染により起こる炎症性疾患で、近年多くの全身性疾患との関連が示唆されている。食品や食品成分によって歯周病原細菌の増殖が影響を受ける報告はあるが、広く使用されている食品添加物が歯周病原細菌に与える影響について詳しくは分かっていない。そこで本研究では食品添加物が歯周病原細菌に与える影響について検討した。本研究では、歯周病原細菌 *Porphyromonas gingivalis* (*P. gingivalis*) を用いて実験を行った。まず食品添加物が細菌増殖に及ぼす効果を検討し、さらに食品添加物作用時の生存率やバイオフィーム形成量を測定した。6種の食品添加物について調べたところ、その全てが *P. gingivalis* に対する増殖阻害作用、殺菌活性を示した。このうち3種は、バイオフィーム内に存在する菌に対して殺菌活性を示した。また4種はバイオフィーム形成を阻害した。これらの知見は、歯周病やその関連疾患を予防する食品の開発に役立つ可能性があると考えられる。